11月 園だより かけはし

キッドワールドこども園
令和８年 11月1日

朝夕の空気に少しずつ冷たさを感じる季節となりました。日中は過ごしやすい日もありますが、朝晩との寒暖差が大きく、体調を崩しやすい時期でもあります。園では、手洗いやうがいなどの基本的な生活習慣を大切にしながら、健康管理に努めてまいります。ご家庭でも、気温の変化に応じた衣服の調節や十分な休息を心掛けていただきますようお願いいたします。

さて、先日開催いたしました 0・1・2 歳児クラスの運動会では、天候にも恵まれ、平日にもかかわらず、多くの保護者の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。今回の運動会では、子どもたち一人ひとりの発達や興味・関心を大切にしながら、日頃親しんでいる運動遊びを中心に計画してまいりました。保護者の皆様と一緒に楽しむ姿や、自分なりに挑戦しようとする姿など、子どもたちの成長を感じていただけたのではないかと思います。

また、11 月 7 日（土）には、サイクルショップコダマ大洲アリーナにおいて、3・4・5 歳児クラスの運動会を開催いたします。子どもたちは、日々の活動の中で友だちと励まし合いながら、さまざまな運動遊びや表現活動に取り組んできました。目標に向かって挑戦する姿や、友だちと力を合わせる姿など、年齢を重ねる中で育まれてきた成長をご覧いただけることと思います。運動会では、結果だけでなく、一生懸命に取り組んできた過程にも温かい拍手を送っていただければ幸いです。

これからも、子どもたち一人ひとりの育ちに寄り添いながら、日々の成長を保護者の皆様とともに喜び合っていきたいと思います。

行事予定

日	曜日	園児に関すること
2	月	身体計測(3 歳児・5 歳児)
4	水	身体計測(2 歳児・4 歳児)
5	木	身体計測(1 歳児 A クラス)
6	金	身体計測(1 歳児 B クラス)
7	土	運動会(3・4・5歳児)
10	火	弁当日、避難訓練(通報訓練)
17	火	5 歳児社会見学(ビーバーパン)
18	水	歯科検診
19	木	健康診断、身体計測(0 歳児 A クラス)
20	金	保育参観(5 歳児)、身体計測(0 歳児 B クラス)
24	火	避難訓練(火災)
25	水	誕生会

お知らせ

※ 11 月の保育料、給食費、延長保育料等の支払い日は、11日(水)となります。

※ 11月の弁当日は、10日(火)です。子どもさんが楽しみにしています。忘れないようにお持ちください。

※ 11 月 18 日(水)は、歯科検診があります。お休みをされないようにお願いいたします。

ビーバーパンへの社会見学について

５歳児クラスの新たな取り組みとして、地域のパン屋さんへの社会見学を計画しています。

園でも日頃からこちらのパン屋さんのパンを提供しており、子どもたちにとって身近な食べ物となっています。普段食べているパンがどのように作られているのかを知り、実際に働く方々の姿を見学することで、食べ物への関心を深めるとともに、働くことの大切さや感謝の気持ちを育む機会にしたいと考えています。

また、地域の方々との触れ合いを通して、社会への興味や関心を広げ、子どもたちにとって貴重な学びの機会となることを願っています。

子どもに「待つこと」を教える大切さ

キッドワールドこども園総合園長 牧野　桂一

日々の子育ての中で、「思いどおりにならないと怒ってしまう」「欲しいものがあると、すぐに手に入れようとする」「順番を守って待つことが難しい」といったお子様の姿に、戸惑うことはないでしょうか。子どもは成長の過程で、自分の気持ちや欲求をうまく調整できず、思わず行動に表してしまうことがあります。そこで今回は、子どもの心の成長に深く関わる「待つことの大切さ」について考えてみたいと思います。

まず、私たち大人が理解しておきたいのは、「待つこと」は、単に我慢をさせたり、子どもの欲求を抑え込んだりすることではないということです。子どもが自分の気持ちと向き合い、感情を調整しながら行動できるようになるための大切な経験なのです。

発達心理学では、自分の感情や行動を状況に応じて調整する力を「自己調整能力」と呼びます。この力は、生まれながらに十分備わっているものではなく、大人との温かな関わりや日々の生活経験を通して少しずつ育まれていきます。

では、「待つこと」を経験することで、子どもたちにはどのような力が育っていくのでしょうか。

①　自分の気持ちをコントロールする力が育つ

子どもが「今すぐ遊びたい」「あのおもちゃが欲しい」と思ったとき、その気持ちを抑えて待つことは簡単ではありません。脳科学の研究では、感情や衝動を調整する働きには、脳の前頭前野などが関係していることがわかっています。しかし、幼児期はまだ発達の途上にあるため、自分の気持ちをうまくコントロールできないことも自然な姿です。

そのため、「我慢しなさい」と言うだけでなく、「早く遊びたいんだね」「次はあなたの番だから、もう少し待ってみようね」と気持ちを受け止め、見通しを伝えることが大切です。こうした経験が、自分の感情や行動を調整する力につながっていきます。

②　先を見通し、目標に向かって取り組む力が育つ

心理学では、目の前の欲求をすぐに満たすのではなく、将来の楽しみのために待つ力を「満足遅延能力」と呼びます。有名な「マシュマロテスト」では、子どもが目の前のお菓子をすぐに食べるか、待ってからより多くのお菓子を受け取るかが研究されました。ただし、その後の研究では、待つ力には家庭環境や周囲への信頼なども関係しており、待てるかどうかだけで将来が決まるわけではないこ

とが示されています。

大切なのは、「待った先には楽しみがある」という経験です。例えば、種をまいて花が咲くのを楽しみに待つことや、順番を待って遊具で遊ぶことなど、日常の小さな経験が、見通しを持って取り組む力や達成感につながっていきます。

③　相手を思いやる心や社会性が育つ

友だちが使っているおもちゃを順番に使う、相手が話し終わるまで待つなど、「待つこと」は人との関わりの中でも大切な力です。

子どもは初めから相手の気持ちを十分に理解できるわけではありません。友だちとの関わりの中で、思いがぶつかることもあります。そのようなときに、大人が「使いたかったんだね。でも、今はお友だちが使っているから、終わったら貸してもらおうね」と双方の気持ちを伝えることで、少しずつ相手の立場を理解し、思いやりの心や社会性が育まれていきます。

④　じっくり考え、判断する力が育つ

「待つこと」には、すぐに行動するのではなく、一度立ち止まって考えるという意味もあります。例えば、積み木がうまく積めなかったとき、すぐに諦めるのではなく、「どうしたらうまくできるかな」と考え、もう一度挑戦することも大切な経験です。

発達心理学では、こうした行動を支える力を「実行機能」と呼び、注意力や行動を抑える力、考え方を切り替える力などが含まれます。大人が先回りして答えを教えるのではなく、子ども自身が考える時間を大切にすることで、試行錯誤する力や問題を解決しようとする意欲が育まれます。

⑤　安心感と人への信頼が育つ

子どもが安心して待つためには、周囲の大人との信頼関係が欠かせません。

「少し待っていてね」と言われた後に、大人が約束を守って応じてくれる。「次はあなたの番だよ」と言われ、本当に順番が来る。こうした経験を重ねることで、子どもは「待っていれば大丈夫」「自分の気持ちは大切にされている」という安心感を持つことができます。

そのため、年齢や発達に応じた無理のない時間から始め、待てたときには「待っていてくれてありがとう」「順番を守れたね」と、その姿を認めてあげることが大切です。

●　大人も子どもを「待つ」ことが大切

ここまで「待つこと」の大切さについて考えてきましたが、もう一つ忘れてはならないことがあります。それは、子どもに待つことを教えると同時に、私たち大人も子どもを待つ姿勢が大切であるということです。

子どもが自分で靴を履こうとしているとき、一生懸命に言葉で伝えようとしているとき、何かを考えながら取り組んでいるとき、大人が少し待つことで、子ども自身が考え、挑戦する機会が生まれます。

もちろん、子どもの年齢や発達によって待てる時間は異なります。疲れや空腹、不安などによって待つことが難しくなる場合もあります。大切なのは、待てないことを叱るのではなく、そのときの気持ちを理解し、無理のないところから経験を重ねていくことです。

「待つこと」を教える目的は、大人の言うことを聞く子どもに育てることではありません。自分の気持ちを大切にしながら、相手の思いにも気づき、状況に応じて考え、行動できる力を育てることにあります。

園でも、一人ひとりの気持ちを受け止めながら、日々の遊びや生活の中で「待つ経験」を大切にしていきたいと思います。ご家庭でも、「子どもに待つことを教えること」と「大人が子どもの成長を待つこと」の両方を意識していただければ幸いです。